



「見たり、聞いたり、探ったり」No.281

通算 No.432

青木 行雄

沈没・タイタニック号の残骸見学の観光ツアー 潜水艇「タイタン」号 悲劇の結末

2023年(令和5年)6月18日、潜水艇「タイタン」号は沈没したタイタニック号を見学するため、水深約4千メートルを目指して潜水を開始した。潜水後、約1時間45分後に通信が途絶えた。

1912年(明治45)に沈没した英豪華客船タイタニック号の事故は約1500人の死者を出す大惨事となった。それから111年後、一隻の潜水艇が5人の乗員・乗客と共に、再び深海へ消えていった。



タイタニック号沈没の現場

この「タイタン」号のツアーを主催したのは米国のオーシャンゲート・エクスペディションズである。同社は2021年(令和3)7月から多事のツアーを始めた。「潜水艇」を操縦していたストックトン・ラッシュ氏(61)は、同社の創業者で、現在はCEO。元もとは金融関係の仕事をしていた。スキューバダイビングの趣味が高じて、水中観光のビジネス化を思い付き、2009年(平成21)に同社を立ち上げたという。

今回のツアーは8日間の日程で、乗客は「死亡しても(オーシャンゲートは)責任を負わない」という免責書類に署名をしていた。参加費はひとり約3500万円だったようだ。

いまこの種の旅行は欧米のセレブの間で「エクストリーム・ツーリズム」として流行しているという。宇宙旅行や海底の墜落飛行機の見学など、一般人ではとても行けない特別さがウリのようである。

この「タイタン」号に乗船していた「ハイミッシュ・ハーディング氏(58)」は英国の資産家。昨年、有人宇宙飛行(約40億円)にも参加している。

「銀行で使うソフトウェアを作る会社で財を築いたのち、プライベートジェットの販売会社を創業した。深海探査に関しては、趣味のレベルではなくマリアナ海溝最深部(水深約1万1千メートル)の潜水時間の最長記録など三つのギネス記録



タイタン号に乗っていた5人の人物

を持っている」

高額ツアーに片っ端から参加するものがある一方でタイタニック一途の資産家もいた。

「英国籍のシャザダ・ダウッド氏(48)は、パキスタンで石油や肥料などを扱うエングロ・コーポレーションの副会長。純資産は五百億円という。幼い頃からタイタニックの魅力に取りつかれ、姉によれば、事故を描いたドラマをいつも見ていたそうである。タイタンで潜水前の彼は興奮して子供のようなようだったという。

シャザダ氏の息子で大学一年生のスレマン氏(19)も同乗した。当初は、怖がっていたが父を喜ばせるために参加した。SF好きの若者は、タイタニックの近くで趣味のルービックキューブをして、ギネス記録に挑戦予定だった。

もう1人、フランス出身の「ポール＝アンリ・ナジョレ氏(77)」は元仏海軍の将校。現役のころから沈没船の探索に興味を持ち、除隊後はその専門家となった。そして旧日本海軍の戦艦大和の残骸調査にも参加しており、世界的にも知られている人だという。中でもタイタニックの残骸回収には、心血を注いできた。35回以上も潜水し、「ミスタータイタニック」と称されたほどの人だったようだ。

5人を乗せた「タイタン」号は、母船となっていたカナダの研究砕氷船「ポーラー・プリンス」から、いかだ状のプラットフォームに乗せられて波立つ北大西洋の海上に下ろされた。タイタンの白いチューブ状の輪郭は、たちまち波の向こうに消えていき、そこから世界で最も有名な沈没船が眠る暗い深海をゆっくり目指す潜水が始まった。

それから1時間45分後、タイタンとの通信が途絶えたのである。タイタンが破損していなければ、その位置がどこであろうと、乗員乗客が吸える酸素は約94時間で尽きる計算になるという。一刻を争うなか、国際的な搜索救助活動が開始されることになったのである。

6月19日の朝には救助活動は全面的に始まって



タイタン号の輸送船に見る本体



タイタン号、輸送船上の姿



潜水場所へ連行中のタイタン号



タイタン号の首の部分



海中へ沈む「タイタン」号

いた。米沿岸警備隊はカナダ軍やこの海域にいた民間の船舶と協力し、ケープコッドから東に900マイル(約1,400km)の海域での捜索を開始している。「沿岸から遠い海域で難しい捜索となっていますが、タイタンを確実に発見できるように投入可能なリソースをすべて投入しています」と、米沿岸警備隊少将のジョン・マウガーは記者会見で語ったという。

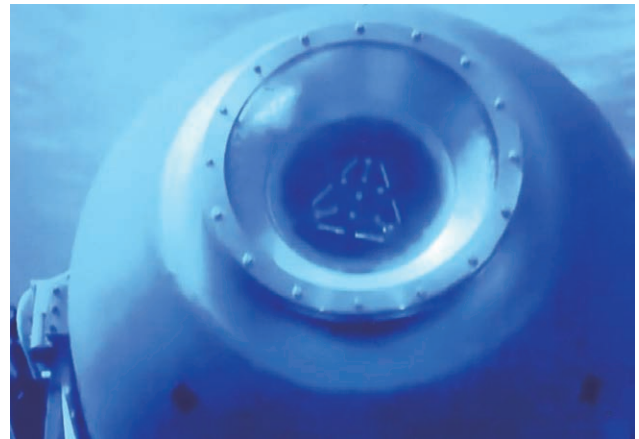
すでに時間との戦いは始まっていた。

タイタンが消息不明になったことを母船のポラー・プリンスの乗員が米沿岸警備隊に伝えたのは、なぜか消息不明から8時間近く経ってからだったという。

つまり、マウガーの記者会見の時点で、タイタンの酸素は約63時間分しか残っていない計算になる。そんな事態のなか米国とカナダの当局は、コネティカット州の2倍の広さの海域、それも深さ2.5マイル(約4,000m)の海域から、全長わずか22フィート(約6.7m)の潜水艇を見つけ出すという難題に取り組まなければならないというのだ。

さらに問題を難しくする要因が複数あった。タイタンには緊急時に電波を発するビーコンも、専用の救出システムもなかったという。また「母船から何かを下ろしてタイタンを見つけたり、タイタンを引き上げたりする方法がまったくありませんでした」と海洋学者のガルギス氏は話しているという。電波発信機がなかったことで、タイタンは誰にも気付かれずに海面を漂流している可能性すらあった。しかし、最大の懸念はタイタンの構造だった。ほとんどの潜水艇は鋼鉄かチタン製の球形の耐圧殻を備えている。これに対してタイタンは、実験的にカーボンファイバーでつくられた潜水艇だったというのだ。

通信が途絶えたということは、耐圧殻が破損した可能性もあった。救出中に破損する危険が高い状態である可能性もあった。そして、すでに壊滅的に破損している可能性もあったのである。



タイタン号ののぞき窓。ここから海中の物品を見るただ1ヶ所の窓

海面と海底の両方を官民共同で大捜索

判断の根拠となる情報がほぼないように思われたことから捜索隊は海面と海底の両方を探すことにした。6月20日には米国とカナダの当局に加えて民間の深海探査企業、民間の船舶、軍用機、そして潜水艦も捜索に加わっていた。

母船のポーラー・プリンスに救出システムが搭載されていなかったことから、フランスの海洋省は海中用の遠隔操作型無人潜水機 (ROV) を備えた調査船「アタラント」の行き先を変更し、捜索支援に当たらせることを決めた。

アタラントのROVは深海にも潜水可能で、遠隔操作で物体を切断できるアームが付属している。もしタイタンを見つけることができれば、何かに引っかかっている場合には引っかかっているものから外して浮上させるよう試みることができるものだった。

このように海面と海底の両方で官民共同で大捜索がくりひろげられた。

6月21日になり、捜索隊から最初の手がかりが報告された。丸2日にわたって30分おきに海中で音がするのを監視艦が検出していたと捜索隊が明かしたという。

この日も海上では5隻の船舶、そして海中では2台ROVがタイタンを捜して捜索が進められた。

ところが、救出の希望もすぐに消えてしまった。6月22日午前11時45分(米東部標準時)には、捜索活動は終了したというのである。前夜に捜索海域に到着したオフショア船「ホライゾン・アークティック」から投下されたROVにより、水深約12,500フィート(約3,800m)、沈没したタイタニック号の船首から1,600フィート(約490m)の地点の海底でタイタニックの残骸が発見されたと、米沿岸警備隊が発表した。

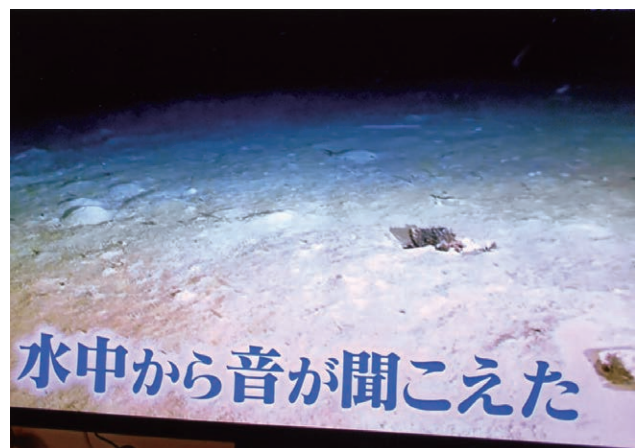
最初に見つかった破片はタイタニックのノーズコーンだった。その周辺には圧力殻の前端の破片が散らばっていた。「この破片の状況は、圧力殻が壊滅的に破損したと考えて矛盾がありません」と、米沿岸警備隊のマウガーは説明したという。

「痛恨の極みですが、乗員5人全員は亡くなったものと現時点で考えています」と、オーシャンゲートは声明を出した。「5人は本物の探検家でした。同じように類まれなる、冒険精神をもち、世界の海洋の探査と保護に同じ深い情熱を傾けていました」

日経新聞、2023年(令和5)6月24日(土曜日)朝刊にこのようなニュースが記載された。



1912年に沈没した「タイタニック号」の残骸



海中にてとびちった、タイタン号の破片か？

潜水艇、不明直後に爆発音、5人全員即死か。

英豪華客船タイタニック号の残骸見学ツアーで行方不明となっていた米潜水艇「タイタン」号について、米沿岸警備隊は22日、乗船者5人全員が死亡したとの見解を示した。潜水艇が行方不明になった直後に米海軍が爆発音を検知していたことも分かった。その時乗船者は即死だった可能性がある。

米沿岸警備隊は22日、タイタニック号の残骸から約490mの海底でタイタンの後部の部品など5つの破片を発見したと明らかにした。破片の状態から「壊滅的な破壊」が起きたと分析した。

米海軍が爆発音を検知した場所はタイタンの破片が発見された場所に近い。海水の圧力が内部の圧力を上回り、潜水艇が一瞬で押しつぶされて崩壊する「爆縮」が起きた可能性を示唆する。

ツアーの乗船者は不慮の事故が発生した際の免責同意書に署名することになっていた。

米メディアは過去の乗船者の話として、同意書は死亡する可能性が強調されていたと伝えられている。

1912年(明治45)に沈没した英豪華客船「タイタニック号」の映画化が空前の人気となり、世界中に知れた渡った。映画館も超満員でビデオも大人気で発売された。

私も映画を3～4回か見てビデオも何回か見た。

この残骸見学ツアーにも大変興味があって、成行きをニュース・新聞・ネットなどで調査していた。誠に残念に思う。

令和5年7月17日記

参考資料

日経新聞

ウィキペディア

NHKテレビ